



# 安芸高田市施策評価シート（平成25年度施策）

評価対象 施策名	文化活動の推進	施策コード	作成者	所属	教育委員会事務局 文化・スポーツ振興室
		45015		役職・氏名	室長 高松 正之
				電話	0826-42-5629

## 1. 施策の現状分析及び意図

総合計画 (基本計画)体系	基本方針	Ⅱ心豊かで創造性に富んだまちづくり
	主要施策	4.文化・スポーツ・レクリエーションの振興

① 住民意識調査結果	文化事業実施時、来場者アンケートを実施	② 左記結果に対する現状分析、住民との協議結果 文化事業実施時に参加者アンケートを実施しているが、市民ニーズは超一流の優れた芸能を求められている。 〔事業実施時参加者アンケート〕
③ 施策の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内には各町文化協会や公民館教室を中心に、様々な団体・グループが、文化活動を行われていますが、構成員の高齢化が進んでおり、団塊の世代等への啓発をはじめ、文化活動の活性化が必要である。</li> <li>市民の文化活動への参加や発表の機会を増大に向け、これまで市文化団体連合会と連携して、市民文化祭(文化芸術の祭典・展示芸術の祭典)をはじめ様々なジャンルの文化事業を実施しているが、市民一人ひとりが心豊かで生きがいを持つよう今後も文化活動の支援が必要である。</li> <li>市民が優れた芸術文化に触れ合っていたり、市民文化センターをはじめ市内の文化ホールの活用を図りながら、NHK公開録画や宝くじ文化公演事業等を積極的に活用して質の高い文化芸術の振興を図る。</li> </ul>	
④ 施策の意図、今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>①市民の自主的な文化活動を支援するとともに、市民文化祭等を開催し、市民が気楽に文化活動ができる場や機会を提供する。</li> <li>②市民が優れた芸術文化に親しむことができるよう、音楽・演劇などの鑑賞機会の拡充を図る。</li> <li>③安芸高田市民の芸術文化活動の拠点施設として八千代の丘美術館の充実を図り、市内唯一の美術館として市内外に安芸高田市の芸術の情報発信を行う。</li> </ul>	

## 2. 施策指標の検討・設定

現状の課題、意図、今後の展望のキーワード	考えられる施策指標候補	重点化
質の高い文化事業の実施	買取公演事業予算の確保	
八千代の丘美術館事業の充実と入館者の増	八千代の丘美術館入館者の確保	
美術館寄贈作品の活用 (街がまるごと美術館事業の展開)	寄贈作品の市内貸出し事業所数、貸出し寄贈作品数	★

施策指標名	単位	評価値の推移			目標値		他団体等の状況	指標の説明
		H23	H24	H25	H26	H28		
買取公演事業予算	目標	千円	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
	実績		5,400	5,200	5,000	—	—	
	達成率	%	54.0%	52.0%	50.0%	—	—	
八千代の丘美術館入館者数	目標	人	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	
	実績		18,392	14,017	11,357	—	—	
	達成率	%	131.4%	100.1%	81.1%	—	—	
街がまるごと美術館事業 八千代の丘美術館寄贈 作品貸出作品数	目標	点	—	—	20	25	25	
	実績		—	—	19	—	—	
	達成率	%			95.0%	—	—	
	目標							
	実績							
	達成率	%						

## 3. 施策構成事務事業の評価

事業種類 経費区分	CD	事務事業名	主な予算科目	H24決算	H25決算	H26予算	人員数(H25) 人件費	重要度	優先度	備考
				うち一財	うち一財	うち一財				
既存 ソフト事業	190	芸術文化振興事業	1・10・5・9・1・3	6,064 4,151	8,137 5,989	8,590 7,390	2.53 20,785	高い	前年度並み配分	
既存 ソフト事業	191	美術館管理運営事業	1・10・5・9・1・4	26,061 23,911	24,450 22,663	22,041 20,058	0.52 4,272	高い	前年度並み配分	
合計				32,125 28,062	32,587 28,652	30,631 27,448	3.05 25,057			

## 4. 3以外で目的達成に必要な新規事業及び連携させる他機関の事業

事業主体	新規又は連携が必要な事務事業	説明

## 5. 施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
① 施策指標の分析	芸術文化事業の買取公演事業については、予算的視点では無く、他の視点で評価をしていくべき。美術館については、入館者数減少の原因を的確に抑える必要がある。
② 平成26年度以降の課題 (事務事業構成、役割分担)	芸術文化振興事業については、事業のスクラップ&ビルドを進めるとともに、自主文化事業を実施できる組織を育成していく必要がある。美術館運営については、市民入館者の増が図れる仕組みを構築するとともに、寄贈作品の有効活用を図っていく必要がある。
③ 総合評価 (今後の展開、事務事業の見直し等)	自主的な文化活動を推進するとともに、支援する仕組みづくりが必要。高齢化社会の更なる進展に伴う行政支援の在り方を見直す必要がある。

政策への貢献度	普通	教育次長	(氏名)	沖野 和明
---------	----	------	------	-------





